

Handwritten text on a vertical strip of paper, possibly a title or a list of items. The characters are in cursive style.

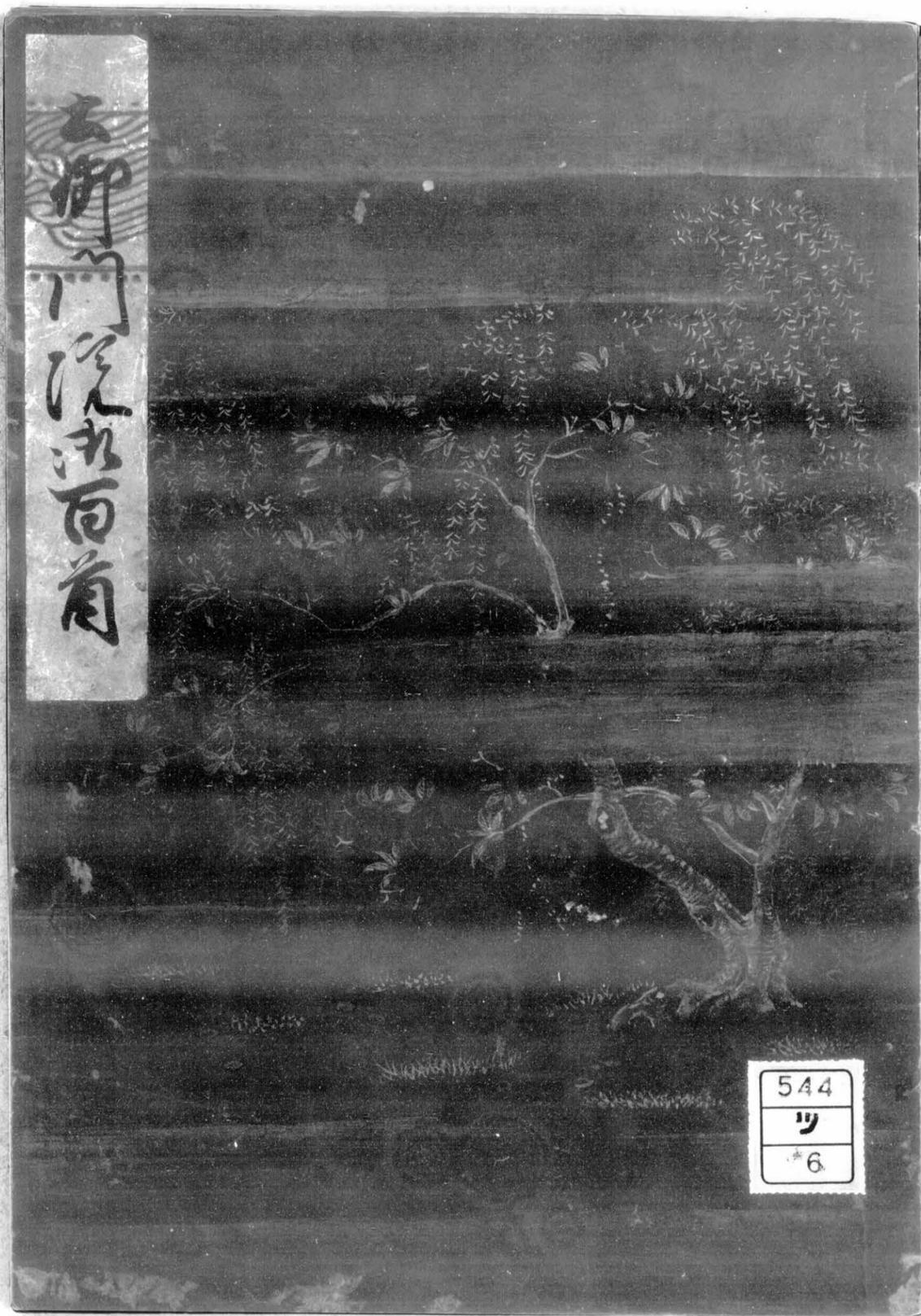
柴昌院標印讓物

Handwritten text on a small rectangular piece of paper, possibly a signature or a note.

543
エ
3
10-1

544
ツ
6
12-2

150 cm
100
200
300



玄柳門院書首

0 150 cm 100 SEKISUI JUSHI 200 300

544
つ
*6



上御門院百首和歌

春

三春

春のあけぬる夜もあけぬる朝もあけぬる
春の心もあけぬる朝もあけぬる

子目

春のあけぬる夜もあけぬる朝もあけぬる
義経の河花伝書

霞

春のあけぬる夜もあけぬる朝もあけぬる
下句のあけぬる

寫

春のあけぬる夜もあけぬる朝もあけぬる
春のあけぬる夜もあけぬる朝もあけぬる

着筆

春のあけぬる夜もあけぬる朝もあけぬる
春のあけぬる夜もあけぬる朝もあけぬる

残雪

しほ本まのふりのらるるむらさき
あつきのふしは本まのふしにまら

まらそ

梅

梅のまのふしはしらけのふしにまら
一字のまのふしはしらけのふしにまら

柳

しほのふしはしらけのふしにまら
柳

早蕨

しほのふしはしらけのふしにまら
早蕨

梅

しほのふしはしらけのふしにまら
梅

春

しほのふしはしらけのふしにまら
春

難

春駒

新清江海

西馮

人言曰社

愛子具

社

社

道

社

社

蓮葉

社

杜若

社

社

藤

社

款名

社

わらわしり〜

三月書

春の風はさかすかに吹く花の香りをかぐ

夏

更衣

朝の光を浴びて花の香りをかぐ

卯花

月日過ぎゆく花の香りをかぐ

葵

あけぼのの光を浴びて花の香りをかぐ

秋

あけぼのの光を浴びて花の香りをかぐ

花の香りをかぐ

雪

あけぼのの光を浴びて花の香りをかぐ

早

あけぼのの光を浴びて花の香りをかぐ

あけぼのの光を浴びて花の香りをかぐ

そとに... 花

照付

あつた... 花

夕月雨

あつた... 花

花梅

あつた... 花

室

あつた... 花

花梅

あつた... 花

蓮

あつた... 花

花梅

あつた... 花

花梅

泉

あつた... 花

蕙和媛

河雲花同少くは生花のついでに記すに河原の

秋

立秋

小隙のついでに記すに河原のついでに記す

七夕

秋のついでに記すに河原のついでに記す

秋

秋のついでに記すに河原のついでに記す

甘節花

秋のついでに記すに河原のついでに記す

薄

秋のついでに記すに河原のついでに記す

菊

秋のついでに記すに河原のついでに記す

菊

秋のついでに記すに河原のついでに記す

秋

秋のついでに記すに河原のついでに記す

初鷹
秋のつとそつわら初鷹なるをうらむはさうた

鹿
尺のた懐きまはく鹿の志すり方に月をうら

露
しらわらぬ家あはれな月をうらむは露をうら

雪
のしほの影をうらむ雪のうらむは雪をうらむ

桂花
今おるるまをうらむ桂花のうらむは桂花をうら

駒込

月
秋のつとそつわら初鷹なるをうらむはさうた

橋衣
秋のつとそつわら初鷹なるをうらむはさうた

進
秋のつとそつわら初鷹なるをうらむはさうた

菊
秋のつとそつわら初鷹なるをうらむはさうた

|| 諸君の御覧に
おまかせ

おまかせ

|| 九月書

九月書

|| 初冬

初冬

初冬

|| 時雨

時雨

|| 霜

霜

|| 霜

霜

|| 霜

霜

霜

|| 霜

霜

寒草

難波津也...の...を...

干鳥

夕...の...を...

水

心井の...の...を...

...

水鳥

...

...

綱竹

河...の...を...

...

神楽

...

鷹狩

...

渡電

九州大學圖書印

